

問い合わせ先
第十一管区海上保安本部
海洋情報調査課長 宗田 幸次
TEL098-867-0118 (内線2530)

沖縄島北部西方の精密な海底地形調査を開始

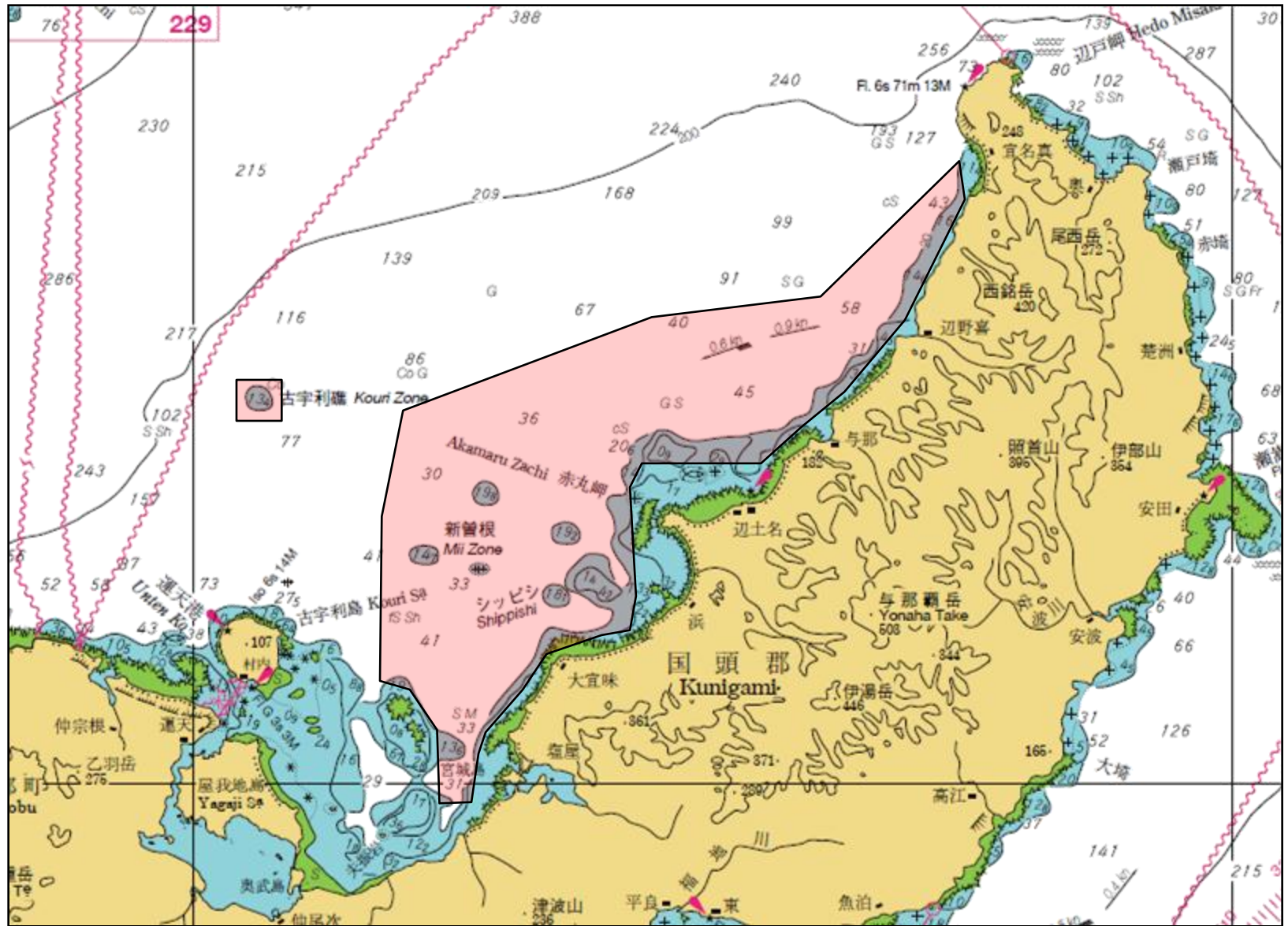
海上保安庁では、航海用海図の刊行及び我が国の管轄海域の基盤的な情報を整備することを目的として、詳細な海底地形の調査等を実施しています。


第十一管区海上保安本部では、本年5月から8月にかけて、沖縄島北部西方海域（資料1参照）で、所属の測量船「おきしお」（資料2参照）を使用し、「マルチビーム測深」（資料3参照）による海底地形調査を実施します。

これまでの調査によって、平成23年には伊江島・本部半島周辺で、世界でも珍しく、学術的にも貴重な最終氷河期以降の海面変動の痕跡となる平坦面と急崖が階段状となっている海成段丘を確認するなど科学的な成果を得ています。今回の調査においても新たな発見があるものと期待しています。

海底地形データは、海域の基盤的な情報として管理するほか、航海用海図に反映し、海上交通安全の確保に活用しています。また、本年3月27日に、海の流れのシミュレーションを研究している沖縄科学技術大学院大学と業務協力を締結し、シミュレーションに必要な不可欠な同データを提供することで、海洋の研究・開発、海洋における安全・安心の確保等に活用することとしています。

【沖縄島北部西方調査区域図】



 : 調査区域

【測量船「おきしお」の詳細】

- ・平成11年3月竣工
- ・総トン数30トン
- ・全長21m
- ・幅4.5m
- ・速力15ノット
- ・主要調査機器

マルチビーム音響測深機

※水深を測る機器

位置測定装置

※船の正確な位置を測る機器

動揺・方位計測装置

※横の広い海底の正確な水深を測るために必要な船の動揺・方位を測る機器



【マルチビーム音響測深機による水深測量】

マルチビーム音響測深機は、従来の音響測深機より数倍もの能力を有する機器であり、平成5年頃から使用され始めました。

十一管区測量船「おきしお」には、最大で水深の約7.5倍の幅を測深できる、最新鋭のマルチビーム音響測深機（SEABAT7101）が搭載されています。

水深及び位置データをデジタル処理し、海底地形を現場で描画できることから迅速かつ効率の良い測深が可能です。

